

東南アジア養殖海老状況についての報告

★ 止まらない相場高騰の背景★

今年の養殖海老相場は異常な事態となっています。昨年9月に一時的に相場は弱含んだが、それ以降はジワジワと強含みの傾向に戻った。また、現状はオフシーズン(1月～5月頃)に向かってその傾向を維持している。昨年の5月中旬より新物の池揚げスタート時と現状の単価の上げ幅は3割前後で上昇しています。

養殖海老の養殖期間を考えると実質6月メインシーズンとなりますが、昨年は7～8月がメインシーズンでした。(天候不順、異常気象により海老の病死、病死対策の為早池揚げの影響でシーズンが遅れた)その為、9月に一時的に相場は弱含む状況でした。

しかし、昨年6月のシーズン中はアメリカの旺盛的な買い付けや、タイ・ベトナム・インドネシア・中国での養殖海老減産という東南アジアエリアの供給量減少による影響で、需要と供給のバランスが崩れ、その状況のまま年末商戦、さらに追い討ちを掛けるように、昨年11月、タイ南部を大型台風がおそい洪水被害が発生。多大なるダメージを被り更なる減産となった結果、今年の養殖海老の状況はまさに「泣き面に蜂」です。

タイの一昨年の養殖海老池揚げ量は54万トンといわれている。昨年に関して、異常気象の影響等もあるが、例年であれば11月、12月で最終的に数量を伸ばしてくるはずなのが減少した。昨年のタイの養殖海老池揚げ量は40～45万トンとなっており、一昨年比の80%前後である。

養殖海老相場が高騰している背景には、現地通貨の諸事情も絡んでいます。タイ王国ではタイバーツが強くなっている影響で産地としては輸出に絡むコストが異なり、オファー価格が強含み傾向になるのは必然的な流れで為替の影響力は大きい。

世界的経済と世界的気候に左右される養殖海老の今年のシーズンはどのように価格変動するか今もって先の見えない状況であります。

以上